

沖縄スタディーツアー報告書

2008年3月5日

文責：吉野和敏

1. 概要

2008年2月22日（金）から、25日（月）まで、PCSの修士学生7名と博士学生1名、教職員3名において、現場からの平和学習を目的とした沖縄スタディーツアーを実施した。

2. 参加者

伊勢崎 賢治（平和構築・紛争予防講座長）

宮城 徹（留日センター 准教授）

吉野 和敏（平和構築・紛争予防講座 プログラムオフィサー）

[M.A. candidates]

Gunasekera Rekha Thilamuni Nisansala (Sri Lanka)

Vodopivec Maja (Bosnia-Herzegovina)

Abdin Mohamed Omer (Sudan)

Walaa Hassan Mahmoud (Egypt)

Urmanov Esenbek (Kyrgyzstan)

Molloy Desmond John (Ireland)

Munabari Fahlesa Wisafahru (Indonesia)

[Ph.D candidate]

Shirine El Jurdi (Lebanon)

3. 日程

2月22日（金）

羽田発、那覇着（機内で昼食）

- ・ひめゆり平和祈念資料館を訪問、見学

2月23日（土）

- ・午前：美ら海水族館見学

- ・午後：フェリーで伊江島へ移動

- ・反戦平和資料館「ぬちどう宝の家」見学、訪問（英語ガイド解説、証言者の話）

2月24日（日）

- ・朝：島民と交流
- ・午前：アハシャガマ訪問
- ・米軍基地入り口訪問
- ・午後：フェリーで伊江島へ移動
- ・沖縄平和祈念公園見学

2月25日（月）

- ・沖縄キリスト教学院大学 新垣誠 准教授 訪問、懇談
- 那覇発、羽田着（機内で昼食）

4. 各訪問地の報告、学生の反応

- ・ひめゆり平和祈念資料館（2月22日（金））

空港から、資料館に着くまで、基本的な沖縄の事情をガイドから説明を受ける。最初の訪問地である、ひめゆりについての概略も説明して頂いた。資料館に着くと、学生から様々な質問が浴びせられる。特にこの場で実際、集団自殺が行なわれたかどうかという疑問がまずあった。実際の現場の前に集団自殺の背景、アメリカ軍の沖縄進入の経緯を、細かくガイドに説明して頂く。また、園内には様々なモニュメントがあり、それぞれの意義についてガイドを介して学生に説明を行なった。学生の好奇心は非常に高く、資料館に入ってから、時間をかけて、一つ一つの展示をじっくり見て回っていた。英語の資料が販売されており、購入した学生もいた。戦争の現場から持ち出した、様々な残骸にも強い印象を抱いていた様子。総じて、女性や子供が、戦争の多大な被害者であるという現実を認識できる場であった。



移動中のバスの中で、バスのガイドの方は、懇切丁寧に沖縄の様々なことを紹介して下さいました。最も学生に好評だったのが、沖縄の言葉であった。標準語との違いに、学生はとても興味深く反応していた。

・反戦平和資料館「ぬちどう宝の家」(2月23日(土))

この資料館を維持、管理している団体は「財団法人、わびあいの里」になる。まず、財団法人の常任理事、当館の館長であり、戦争の体験者でもある、謝花悦子氏による体験発表となった。戦時中、戦後の細かい描写に触れつつ、当時の記憶をたどり、自身の胸中を長時間にわたり語って頂いた。現場にいた人からの視点で捉えた、戦争の状況に学生達も深く耳を傾けていた。その中で印象に残った点として、「戦争は不幸の根源である。その根底には人間の弱さがある。」「無知であってはいけない。強制立ちぬきの事実を残していくことが大事。」「間違いを正すのが平和、非暴力の戦い。」「平和の武器は教育である。」との真言であった。

その後、資料館に足を運ぶ。小さい規模であるが、現場からの遺品の数は、他の沖縄の資料館に勝る気がする。ここのみにな置かれている貴重な資料、特に戦後の伊江島の島民の米軍基地に対しての戦いの記録など、生々しい品々の数が所狭し並べられている。



・アハシャガマ (2月24日(日))

3日目の最初の訪問地であるが、その前に旅館の人の配慮で、ご近所の戦争体験者の方にお越し頂いた。しばし学生と和やかに懇談をした後、お世話になった旅館の方々と別れ、アハシャガマに向かう。こういった洞窟は沖縄にも多数存在するが、集団自殺が行なわれた現場として銘板が打たれ、その歴史をとどめている。洞窟内に入ると、普通の洞窟ながらもその過去に起こった惨事から、入った者の心を強く痛める。このような思考を超えた体感学習が、平和教育として大きな意義を持つのかと実感した。その場で交わされる、学生とガイドとの対話も、現場とともに詳細を学ぶ貴重な機会であった。



・米軍基地入り口訪問（2月24日（日））

米軍基地入り口は大きな警告の看板が掲げられている。人通りも少なく、まれに車が入り出す程度だった。学生は興味深く中を覗いたり、写真を撮ったりしていた。その場から、しばらくバスで走った場所に、島民が建てた団結道場というものがあり、「米軍に告ぐ」という表題で、土地返却を主張する掲示をしていた。



・沖縄県平和祈念公園見学（2月24日（日））

ここは一つの大きな公園になっており、平和を祈念する様々なモニュメントや戦死者の名前を刻んだ、多くの石版が並べられている。公園内を一巡した後、沖縄県平和祈念資料館に入る。建物内の入り口前には、不発弾の殻がそのまま、床下のガラスを通じて見られるようになっていた。この資料館も英語の説明がされており、また無料で日英の音声ガイドのレシーバが貸し出されていた。館内のビデオには英語字幕があり、学生はその戦争の背景や、現状をじっくりと見入っていた。閉館時間が迫り、後半の展示はゆっくりと見られなかったが、沖縄戦について、総合的に多くのことを学べた場である。



・ 沖縄キリスト教学院大学 新垣誠 准教授 訪問 (2月25日(月))

若く、気さくな教授で、話もとてもおもしろく、とても楽しい交流となった。学生からの質問を受けながらの懇談的な話で、全ての質問に的確にわかりやすく応えてくれた。

以下はその要旨である。

- ・ 基地によって、多くのアメリカ文化が流入する。町中にも海軍がよく見られる。海軍による現地の影響は、婦女暴行事件にあげられるように、女性、子供が犠牲者になる。
- ・ 基地問題、教科書問題については大田前知事の言動にもあったように、沖縄人の声を反映する行動をしても、日本政府からの圧力（経済制裁）がかかってしまう。
- ・ うちなんちゅう祭りー5年に1度開催される、沖縄を起点に行き来した、移民の人たちによる。異文化交流フェスティバルがある。
- ・ 沖縄人の社会運動の推移ー心中を伝える媒体として、デモのような直接的な訴えから、歌やコメディを利用した、コミュニケーションが取り入れつつある。



気づいた点

- ・ 博物館の入館料、高速料金はツアーパックに含まれておらず、教員の立て替えとなる。
(総額：12,250円)
- ・ バスガイドの通訳を行なう必要がある。
- ・ 夕食は洋食より和食の方を学生が好んだ様子。
- ・ 学生は移動中、多くの写真を撮りたがり、その移動はゆっくりで時間がかかる。
- ・ 夕食時間は7時半、朝食は7時から8時の間。朝の出発はいつも8時半であった。

次年度で検討すること

- ・ 入館料や高速料金がパック込みになるかどうか確認する。
- ・ 通訳する事項を今回の経験から、事前に想定し準備を行なう。
- ・ 各滞在地でできる限り時間に余裕のある、計画を立てる。
- ・ ベジタリアンやムスリム(豚・アルコール 厳禁)の学生のため、食事内容で事前に宿泊先等に確認をとる。(事前に、代理店に連絡していたが、完全に現地の方まで連絡が行っていないことがあった。)
- ・ 帰路の便を少し送らせて、訪問地を一つ増やす。
- ・ 米海兵隊普天間基地付近の訪問：住居の中心におかれた基地。その騒音や地域住民の状況を見て、問題の深刻さを実体験する。
- ・ 現地の子供達との交流があれば、異文化交流にも繋がり、社会貢献にもなる。
- ・ 宜野湾市立普天間第二小学校の訪問。教室の窓が二重窓になっている。効果は薄く、爆音で頻りに授業が中断される。毎年6月に飛行機事故を想定した避難訓練が行われる。
- ・ 平和祈念資料館訪問を初日に行い、沖縄戦の概要を理解してもらう。ひめゆりを入れ替わりで3日目にする。

その他

- ・ バスドライバー 奥浜様、バスガイド 長浜様はとていい方で、大変お世話になった。また機会があればお願いしたい。(東洋バス 098-834-3050)

スケジュール

日付	実習内容	宿泊
2/22(金)	ANA 125 羽田 10:35 発→那覇 13:20 着(宮城先生除く)(機内で昼食) 那覇空港着→バス乗車 訪問 15:00 頃ひめゆり平和祈念資料館を訪問、見学 (☆宮城先生：ANA 131 羽田 15:50 発→那覇 18:35 着)	那覇

	<p>ホテル着（宮城先生合流）、夕食 振り返りミーティング・翌日の説明 就寝</p>	
2/23(土)	<p>起床、朝食 ホテルからバスで移動開始 美ら海水族館見学 昼食 バスで本部港へ移動 フェリーで伊江島へ移動（本部港発 15:00→伊江港 15:30 頃着）</p> <hr/> <p>伊江島港でバス乗車、英語ガイド合流 訪問 反戦平和資料館「ぬちどう宝の家」見学（英語ガイ ド解説、証言者の話） ホテル（民宿）着、夕食・島民と交流 振り返りミーティング・翌日の説明 就寝</p>	伊江島
2/24(日)	<p>起床、朝食、英語ガイド合流 ホテルからバスで移動開始 訪問 アハシヤガマ見学、米軍基地近くを走行（英語ガイ ド解説） 昼食 フェリーで本島へ移動（伊江港発 13:00→本部港 13:30 頃 着）</p> <hr/> <p>本部港からバスに乗車 訪問 15:00 沖縄平和祈念公園見学 ホテル移動（バス） ホテル着、夕食 振り返りミーティング・翌日の説明 就寝</p>	那覇
2/25(月)	<p>起床、朝食 訪問 9:30 沖縄キリスト教学院大学 新垣誠 准教授懇談 会 11:30 空港へ移動、搭乗券発券後、空港で昼食 ANA 126 那覇 12:45 発→羽田 14:55 着 到着後解散</p>	—